



希望の花「水仙」

帯山西小学校の運動場の南側の花壇に、今年も3月11日を待っていたかのように、東北の水仙が咲きました。今から12年前、東日本大震災という地震が日本を襲いました。

九州にいる私たちは、テレビから流れる映像を放課後の職員室で信じられない、という思いで見ていることを思い出します。その、津波や地震の被害の中、力強く咲いたのが水仙の花です。当時、「希望の花」と東北の人々は言っていたそうです。

全国で、地震にあわれた方に支援しようという動きがあり、帯山西小学校もその一つとして支援していたようです。そのことを学びにつなげ、宮城県や岩手県の方とつながり、岩手県に自生する水仙の球根を送っていただいています。正門付近の九州に長く自生する水仙は、2月ごろからいい香りを漂わせながら咲き始めますが、この東北の水仙だけは、3月11日を待っているかのように、その前後に咲き始めます。通りがかった子供たちは「もう12年も経つのですね。歴史を感じます。」「この水仙の花を見ていると、知らなかった東北の地震が浮かび上がってくるようです。」と話していました。

※現在は正門付近の花壇にも植えられて、咲き誇っています。



ありがとうの花

帯西のプール門近くに、球体のオブジェがあることをご存じでしょうか？そのオブジェの下は、雑草が生えていたりごみが落ちていたりして、雑然としていました。そこで日頃お世話になっている地域の方々の心を少しでも和ませようと、5年生の子供たちの有志が、草を取り、自分たちでそっと花を植えてくれました。花を植えてくれた子供たちは、この花のことを「ありがとうの花」と呼んでいます。毎日この花に水をあげて、「きれいに咲いて」と願いを込めてくれています。



春の山菜「フキノトウ」

学校のある場所に「フキノトウ」が春を告げています。フキノトウは人気のある山菜です。フキノトウは芽出し直後の花が開く前のものを、根ぎわから採取すると、若いものほど苦味が少なく、香りも強くて美味しいです。私個人的には、もぎたてのフキノトウを天ぷらして塩かけて食べるのが一番だと思っています。

